

みの～れは身近で非日常を味わえる場所



公演スタッフ

こむら
小村 こそえさん

「みの～れを活用して色んな人と交流できたら
楽しいですよね」と語る小村さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.171

今年も残りわずかになりました。池花池に今年も白鳥が飛来し、幼鳥を囲んで家族で過ごす姿は微笑ましいですね。また、大空を飛ぶ姿も見事です。22日は冬至。風邪予防にカボチャを食べたり、健康と来福を願う縁起物として柚子湯に入るといふ言われもあるそうです。お身体に気をつけてよいお年をお迎えください。今回は公演スタッフのメンバーである小美玉市羽鳥地区にお住まいの小村こそえさん取材します。

※みの～れ公演スタッフ…みの～れ自主事業の際にお客様が初めて出会うのが公演スタッフです。みの～れの玄関を入ってからお帰りになるまでの大切な時間をサービスの心(笑顔)でおもてなしするよう心がけています。そのため、公演スタッフは接遇マナー研修などを受けています。

小村さんがみの～れに関わるようになったきっかけを聞いてみました。「娘が2002年、みの～れ住民劇団Myuのこけら落とし公演『田んぼの神様』に出演しました。子どもを送迎する親にボランティアの支援隊に入ってくれたいと声がかかり、保護者はお手伝いしましょうということになり、自然と公演スタッフになりました。娘が高校生になったときにMyuを休むことになり、私も公演スタッフを休んでいた時期がありました。支援隊長でもあり、公演スタッフの代表でもある近田さんから声をかけてもらい、再び公演スタッフのメンバーとして復活しまし

た」と懐かしそうに話してくれました。

小村さんに趣味を聞いてみると「・・・そう言われると悩みますね(笑)。最近は登山に行っています。といっても低山ですけどね。最近、大子に行きました。登山した後においしい物を食べて、温泉に入つてのんびりするという3点セットです。子どもたちが大きくなって家から離れて暮らしているのでもちよつと運動しておいしい物を食べる・・・主人とゆつくり過ごせる登山は楽しいですね」と笑顔で話してくれました。

みの～れ誕生から関わっている小村さんは「住民の方が積極的に関わっている文化ホールは他にないと思います。参加の仕方も発表したり、展示をする。だけじゃなくて、例えば親子だったり、世代を超えて利用できたらもつと楽しいだろうなと思います。19年前、この町で演劇をすることが初めてだったので、練習はもちろん全てが新鮮で、子どもたちはみの～れに来るのが楽しくて大好きな場所でした

ね。こけら落とし公演に出演した人たちが今も継続して活躍しているのは素晴らしいことですね」と話してくれました。

小村さんは「公演スタッフをして楽しいことは、日常生活の中で経験できないことが経験できることです。お客様を接客することで自分が成長することもあります。想定していないことが生じることもあり、その時はみの～れの職員さんがしっかり対応してくれるのでやっていると笑顔を話してくれました。」

公演スタッフはみの～れの自主事業の際、お客様に素敵な時間をお過ごしいただくため、笑顔でお客様を「いらっしやいませ」とお迎えしています。2021年は、新型コロナウイルスの影響で自主事業が中止や延期になり、活動する機会が少なくなっていました。2022年は安心してボランティアができる日が戻ってくると思います。来年もよろしく願っています。

(藤田佐知子)